

松阪安衛月報

2月号

松阪労働基準監督署
TEL0598-51-0015

冬季の転倒災害防止について

松阪署管内では、事業場内の通路等での転倒災害が多く発生していますが、冬季特有の雪や路面凍結による転倒災害も発生しています。

事業場で取組む対策として、①凍結危険箇所の把握、②凍結危険箇所の見える化(危険マップ)などがあります。また、雪が降ったときには危険箇所の凍結防止、4S(整理・整頓・清掃・清潔)の徹底を行いまししょう。

労働者が取組む対策として、①転びにくい歩き方を行う、②歩行の際に両手をあげる等を行うことが大切です。

転びにくい歩き方とは・・・小さな歩幅で、そろそろと歩く歩き方「ペンギン歩き」です。体の重心をやや前におき、できるだけ靴の裏全体を路面につける気持ちで歩くことを心がけ、滑りにくい靴を選ぶことも大切です。そのほか、滑りやすい箇所(駐車場・横断歩道の白線の上・坂道など)を避け、急がずにゆっくりと歩きましょう。



第三次産業・ゼロ災運動100 4事業場達成

労働災害ゼロ(ゼロ災)達成報告をいただいた事業場は4事業場ありました。

令和4年9月20日～同年12月28日までの100日間において、第三次産業を対象にゼロ災運動を呼びかけたところ、達成事業場は小売業、社会福祉施設及び派遣業といった多様な業種となりました。

各業種で重点とする労働災害防止目標(スローガン)や取組みには違いがあるものの、労働災害を未然に防ぐための危険予知活動(KY活動)、労働者同士での声かけを行うことで、自主的に労働災害の危険要因を減らすといった取組みが行われていました。

達成事業場の取組内容を参考にいただき、労働災害防止のため安全衛生活動を推進してください。

第三次産業・ゼロ災運動100 達成事業場の取組内容紹介

各事業場の取組内容を紹介します。

事業場名	スローガン	取組内容
株式会社〇〇〇	みんなが笑顔で安全	危険箇所の見える化(危険マップ)の作成と共有
株式会社〇〇〇	安全な職場づくり	労働者の安全意識向上のための研修の実施
株式会社〇〇〇	安全な職場づくり	労働者の安全意識向上のための研修の実施
株式会社〇〇〇	安全な職場づくり	労働者の安全意識向上のための研修の実施

第三次産業における労働災害の動向

- 労働災害発生件数(労働者100人当たり)は前年比で増加傾向にある。
- 労働災害発生件数(労働者100人当たり)は前年比で増加傾向にある。
- 労働災害発生件数(労働者100人当たり)は前年比で増加傾向にある。

転倒の減り具合

転倒の減り具合

転倒の減り具合

資料のQRコードはこちら

身近な「はたらくひと」に「今日も一日安全に働こう」と思わせるイラスト(共催:松阪労働基準協会、建設業労働災害防止協会三重県支部松阪分会、林業・木材製造業労働災害防止協会三重県支部松阪分会)を、松阪・多気地区の未就学児から募集し、多数のご応募をいただきました。松阪安衛月報では、応募作品を紹介しています。



労働安全衛生法第88条に基づく計画届の提出にあたっての留意点について

危険な機械や設備を設置、移転及び主要構造の変更を行うときは、所轄労働基準監督署長に対して設置工事等の計画を届け出る必要があります。届出にあたっては次の事項について留意してください。

建設工事計画届の届出について
①地山の掘削の作業、②圧気工法による作業、③石綿の除去、④廃棄物焼却炉・集じん機の解体、⑤土石採取、⑥坑内掘りによる土石採取については、当該作業に限らずに、関係する仕事全体についての計画を届け出る必要があること。

「建設等をしようとする建設物等の概要を示す図面」について
当該建設物等の平面図、立面図等をいう。

「工法の概要を示す書面または図面」について
工事時に使用する主要な機械、工事の主要なものの進め方等を示すもの。

「労働災害を防止するための方法及び設備等の概要を示す書面又は図面」について
行おうとする仕事で発生しうる労働災害について記載し、それぞれの労働災害についての対策を記載すること。
(例：地山の掘削の場合、地山の掘削図面に加え、伐木などの作業、機械搬入路・作業員通路等を記載すること。)

令和5年1月末速報 死傷者数は前年同期より18人増加の258人

令和4年災害発生状況

休業4日以上死傷者数は前年同期より18人増加し、258人(7.5%増)となりました。

事故の型別で比較すると、墜落・転落災害は12人増加、転倒災害が2人増加、激突され災害についても13人増加となり、一方で、はさまれ・巻き込まれ災害は8人減少となりました。

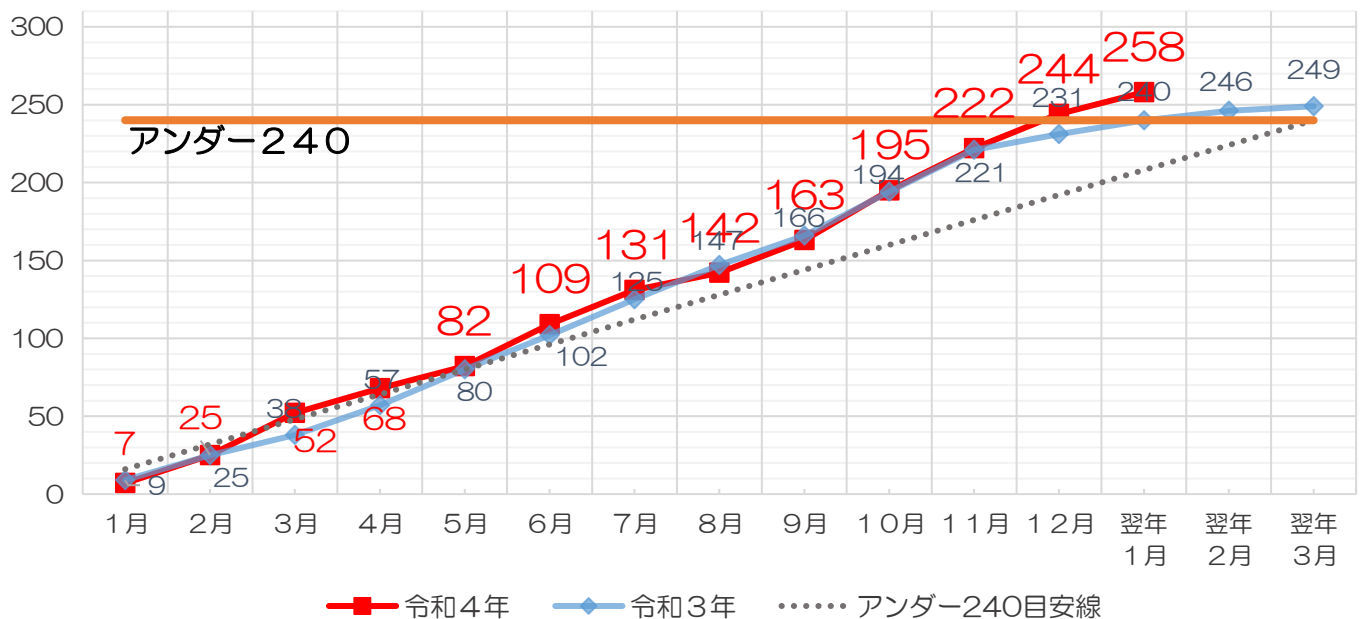
業種別・事故の型別では、墜落・転落災害の人数が最も増加した業種は貨物運送業、転倒災害の人数が最も増加した業種は小売業、激突され災害の人数が最も増加した業種は小売業となりました。

特に、小売業で発生している激突され災害については、ロールボックスパレット(いわゆるカゴ車)を取扱っているときに、カゴ車が坂道によって逸走し激突される、2人作業中に一方の労働者が取扱いを誤り激突されるなどのケースにより発生しています。ロールボックスパレットの正しい使い方について安全教育を実施しましょう。

ロールボックスパレットを使う前の5つの基本チェックリストはこちら↓



松阪&多気 各月末日時点における労働災害発生状況



労働災害防止関連の資料を三重労働局ホームページ「松阪労働基準監督署からのお知らせ」に公開しています。
(<https://jsite.mhlw.go.jp/mie-roudoukyoku/kantoku/matsusaka02.html>)